

地域医療連携室だより

地域医療支援病院 登録医療機関 140件

2009年3月



こどもの「元気」と「笑顔」のために より一層の地域連携を

地域医療連携室室長 赤城邦彦

こども医療センターの本館の正面玄関が平成20年12月25日にオープンし、正面玄関、救急車入口、感染入口が一行に並び、患者さんの状況に応じた機能別の病院へのアクセスがスムーズにできるようになりました。平成21年3月には正面駐車場の整備が完了して、これまでご迷惑をかけていた患者さんのご利用もずっと快適になると思っています。

こども医療センターは、本館の完成、旧館の取り壊し、正面玄関の整備などで延び延びとなっていた病院機能評価訪問審査を、この平成21年1月に受審しました。受審の取り組みの中で、これまであまり注意の行き届いていなかった点も含めて、こども医療センターの全体を職員皆で一つ一つ見直す中で、病院の新しい姿を作り出そうとしてきました。皆の一体感も得て、非常に貴重な経験をしたと思っています。病院の隅々まで、大地が水を吸い込むように新しい空気が流れることを望んでいます。

新しく作成したものに、こども向け基本方針があります。これまで私達はこども達に対する誓いとして、「病院のこども憲章」を持っていましたが、今回こども達に直接話しかけることばとして、**<わたしたちのちかい あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせませす>**を選びました。

地域医療連携室は、地域の先生方とより一層の連携を深める目的で、昨年初めて地域医療連携実態調査を行いました。また、県内の小児医療、周産期医療の実情を把握するために中核小児医療機関を訪問しました。提起されたご要望やご期待に対して、こども医療センターはできる限りその役割を果たしていこうと考えています。小児医療、周産期医療を取り巻く状況には厳しいものがありますが、皆様方と協力して進んでいきます。どうぞご活用下さい。返信や診療情報提供につきましても、よりスムーズにいくようなシステム導入を図っている所です。ご要望等ありましたら、地域医療連携室までぜひご連絡下さい。





低身長で御紹介いただいたお子さんは、 どのような検査を受けるのでしょうか？

内分泌代謝科 安達昌功

内分泌代謝科に御紹介頂くお子さんは、大多数が低身長です。今回は、当科での低身長の診療の概略をご説明いたします。

まず既往歴や家族歴の聴取が重要です。現病歴では、食欲や排泄、運動・睡眠・学習などいろいろ質問し、児の全体像をつかみます。並行して、成長曲線を作製します。つづいて診察ですが、最初に顔貌や奇形徴候の有無をチェックします。頭囲、指の長さ等にも気をつけています。思春期段階の評価は必須で、男児では小陰茎の有無も重要です。Hand&WristのX線による骨年齢評価は全員施行しますが、同時に、骨の形態異常の有無を確認することも重要です。必要に応じ、脊椎や全身のX線を撮影します。血液検査では、血算・生化学検査に加えて、染色体（主に女兒）、内分泌スクリーニング（IGF-1、甲状腺機能、LH/FSH）を行い、代謝異常のスクリーニング（血液ガス、アンモニアなど）を加える場合もあります。

以上のような検討を行っても、低身長の原因が不明で「体質性低身長」と暫定的に診断せざるを得ないことが少なくありません。しかし、病的な状態による低身長でないことを確かめておくことは、有意義なことと考えています。将来、「体質性低身長」の病態が分子レベルで、容易に検討できることを期待しています。



二分脊椎症に対する当センターでの排泄管理



泌尿器科 山崎雄一郎

脊髄髄膜瘤に代表される二分脊椎症では排尿・排便の管理が必要となることが多く、この良し悪しが学童期以降の生活の質を左右するともいえます。当センターでは新生児科、総合診療科、外科の協力のもとに泌尿器科と小児看護専門看護師が中心になって排尿・排便に関する問題に生まれたときより対応しています。排尿に関しては膀胱機能評価の結果をもとに間欠導尿法と抗コリン薬の投与を早期より開始し、腎機能と尿禁制が将来にわたって保たれるように努力しています。しかし保存的な方法で管理できないお子さんに関しては消化管を利用した膀胱拡大術などの手術治療についても積極的に検討し、脳室腹腔シャントの入っているお子さんでも安全に手術が施行できています。

排便についても通常の下剤や浣腸、摘便で便失禁がコントロール出来ないお子さんには、多量の水で浣腸する逆行性洗腸法を紹介し小児看護専門看護師が指導にあたっています。それでも便失禁のコントロールが困難な場合は、洗腸用ストーマ作製手術を施行し大腸全体を洗えるようにする順行性洗腸法も導入しています。術後は皮膚・排泄ケア認定看護師がきめ細かな対応を行い、多くのお子さんの便失禁を改善させています。



こどもの食物の好き嫌い



栄養管理科 廣木キミ子

「好き嫌いが多くて・・・」「にんじんは、絶対に食べません」などは、お子さんの栄養相談をしていくとよく聞かれることばです。好き嫌いはいくらでも無いほうが良いとは思いますが、今の状態がずっと続くかどうかはわかりませんし、「何でも食べる子」にはなかなかお目にかかれませんが、食べられないものを無理強いするより、「嫌いでも一口食べてみる」「もっと食べたいけれどこれ以上は食べないでおく」という気持ちを育てることが大切だと思います。当センターに入院しているお子さんを対象にした嗜好調査では、「嫌いな食べ物がでたらどうしますか」の問いに「一口でも食べようとがんばる」が39%、「がんばって全部たべる」が7%でした。また、「嫌いだった食べ物で、病院で食べられるようになったものはありますか」の問いに22%のお子さんが「ある」と答えています。その食べ物は、トマト、ピーマン、肉、魚などでした。

食物の好き嫌いの解消のための1つの手段として、家庭こそ食育の場という気持ちで、子どもと一緒に買い物に行く、子どもとメニューを考える、料理を一緒につくる、野菜を育てるなども効果的な方法だと思います。また、子どもは雰囲気も食物と同じように食べているのです。家族や友達と楽しく食べることは欠かせません。



食事の一例（ひなまつり）



こどものNST（栄養サポートチーム）

NST座長 高増哲也

神奈川県立こども医療センターには、NST（栄養サポートチーム）という、栄養について考えるチームがあります。患者さんの身長・体重などからハイリスク患者を見つけ出し、バランスのよい栄養を摂っているかどうか計算して、アドバイスをします。健康にとって栄養が大事、ということは当たり前のようであるが、病気をしてい人や障害がある人にとっては難問です。病気のことだけではなく、どんなものを食べているか、どんな生活をしているかということが関係してきます。「適切なアドバイスとは？」とメンバーはいつも頭を悩ませています。

メンバーにはいろんな職種の人がいて、知恵を出し合います。医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士などです。そして、栄養を評価するためにはデータが必要です。ところが、身体測定（例：上腕皮下脂肪厚）、血液検査（例：アルブミン）など、成人でよく使われるデータは、日々成長している子どもには当てはまらないことも多いのです。そこで、成長曲線のグラフを書いてみることをお勧めします。「NSTセミナー」などを通じて、こどもの栄養についての情報を広く発信していくことも、私たちの使命だと考えています。

神奈川県立こども医療センターの基本理念と基本方針

1 基本理念

こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

2 わたしたちのちかい

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせます。

3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行います。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

神奈川県立こども医療センター・研修のご案内

第78回 学術集談会

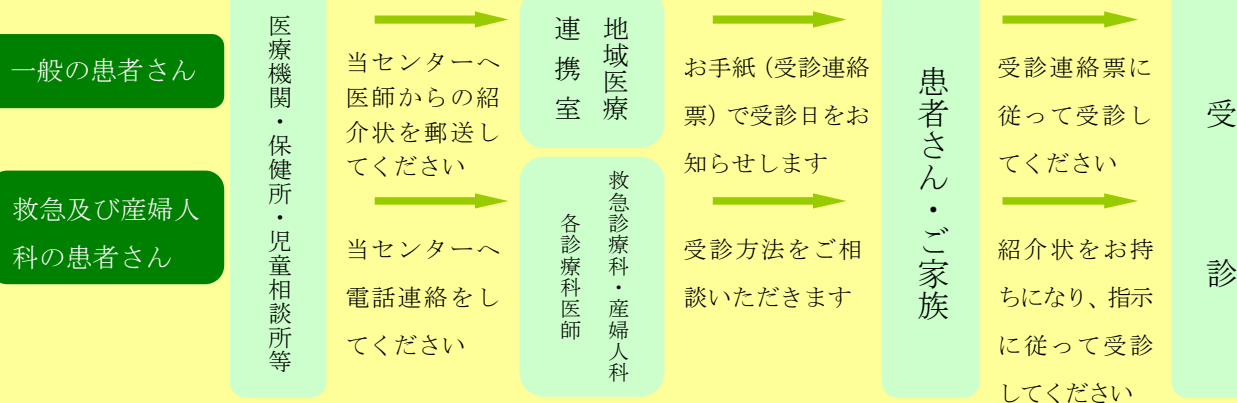
- ☆ 日時：平成 21 年 6 月 13 日(土) 14:00～
- ☆ 場所：かながわ県民センター
- ☆ テーマ：小児の在宅医療
- ☆ お問い合わせ：総務課 小柴

第7回 小児科夏季セミナー

- ☆ 日時：平成 21 年 8 月 1 日(土)・2 日(日)
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ 講師：当センター医師
- ☆ お問い合わせ：地域医療連携室 萩原

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください

編集・発行

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室
〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/kodomo>

